



敷地内の配置計画

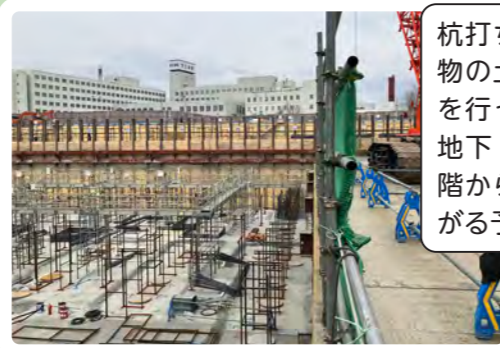
- ① 国道 12 号からのメイン出入りに交差点を計画
- ② メイン動線の傾斜路にロードヒーティングを敷設
- ③ 正面出入口近くにバス停を設置
- ④ 雪や雨でも利用しやすい屋根付きの一般車両乗降スペース
- ⑤ 職員の動線と周辺環境に配慮した院内保育園



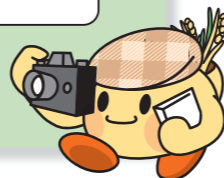
新病院のフロア構成

8階	展望が良い最上階に全室個室の緩和ケア病棟 20 床のほか、病棟への配膳効率を考慮し、患者給食を調理する厨房を配置します
7階 6階 5階	個室を基本とする一般病棟フロアとし、6階の一部に SCU（脳卒中集中治療室）6 床、7階の一部に感染症病床 4 床を配置します
4階	外来診療・作業療法・デイケアなどを行う精神医療センターと、精神病棟を配置します
3階	4 人部屋を基本とする回復期リハビリテーション病棟と、個室を基本とする小児・周産期病棟を配置します
2階	外来・病棟の双方からのアクセスを考慮し、リハビリ部門と透析部門を配置するほか、救急からの動線に配慮した位置に手術室、HCU（高度治療室）を配置します
1階	さまざまな相談窓口となる総合支援センターや外来診療機能を集約し、分かりやすい配置とするほか、救急部門を配置します
地下 1 階	業者・職員駐車場からの出入りや物品の搬出入を想定し、薬剤や医療材料などの供給部門のほか、化学療法や放射線治療といったがん診療機能を集約配置します

いわみ記者が行く！現場レポート



杭打ち工事が終わり、建物の土台となる基礎工事を行っています。今年は地下 1 階部分、来年は 1 階から 8 階までが立ち上がる予定です



病院統合を経て新病院へ

市立総合病院は、4月に北海道中央労災病院と統合しました。統合により、医師や看護師などの医療スタッフや医療機器などを集約し、経営の基盤を強化したことで、人口減少や物価高騰といった厳しい経営環境下でも、経営を安定させ、新病院につなげられるように取り組んでいます。新病院は、令和 10 年秋の開院を目指して昨年 11 月に着工し、現在建設工事が進められています。今月は、新病院の全体像や新たな機能、工事の進捗状況をお知らせします。

問合先 市立総合病院新病院整備室（9 西 7） ☎ 22-1650

新病院の外観イメージ（国道 12 号側から見た新病院）



新病院建設に関する最新情報は、市立総合病院ホームページをご覧ください



POINT

新病院は、3月に閉院した北海道中央労災病院の敷地に建設しています。地上 8 階、地下 1 階の建物で、大きな地震が起きても建物と患者や職員の安全を守り、診療機能を維持できるよう「免震構造」を採用しています。



新病院の基本情報

建設地 4 条東 16 丁目 1-1 ほか（旧北海道中央労災病院用地）
敷地面積 77,334.31㎡
診療科 27 科（予定）
病床数 358 床
建築面積 約 7,900㎡
延床面積 約 33,900㎡
最高の高さ 43.40m
階数 地上 8 階 / 地下 1 階
構造 RC+S 造 一部 SRC 造（免震構造）
駐車場 約 900 台
駐輪場 約 100 台

病床数	
一般病床	306 床
急性期一般病棟	230 床
HCU（高度治療室）	12 床
SCU（脳卒中集中治療室）	6 床
緩和ケア病棟	20 床
回復期リハビリテーション病棟	38 床
精神病床	48 床
感染症病床	4 床
合計	358 床

診療科（予定）		
総合診療科	内科	呼吸器内科
循環器内科	消化器内科	糖尿病内科
腎臓内科	緩和ケア内科	小児科
外科	血管外科	透析外科
乳腺外科	整形外科	産婦人科
耳鼻咽喉科	眼科	泌尿器科
精神科	麻酔科	脳神経外科
皮膚科	放射線診断科	放射線治療科
リハビリテーション科	病理診断科	歯科口腔外科

持続的な地域医療を確保するために